

# ハンガリー留学という選択肢

**激**化する国内の医学部受験の裏側で、今ひそかに広まっているのが海外医学部への留学だ。チェコや中国などいくつか留学コースがあるが、「最も実績が多いのがハンガリーの医学部」（ハンガリー医科大学事務局の石倉秀哉専務理事）だという。

なぜハンガリーなのか。海外大学の



ペーチ大学での解剖実習。ハンガリーは物価が安く治安もよい

卒業生が日本で医師国家試験を受けるためには、高難度の予備試験を受けなければならない。だが、ハンガリーの大学医学部は厚生労働省に認定されており、卒業生はこの予備試験が免除される。現在、年間約70名の日本人がハンガリーの医学部へ旅立っている。

ハンガリー留学の門戸は広い。日本で年10回開かれる入学試験の倍率は2~3倍。入試問題の難易度は国内の医学部よりもはるかに低いという。

物価は日本の半分程度で、学費を合わせて総額2000万円前後で卒業できる。6年間の学費が平均3200万円かかる国内の私立大学医学部に通う

よりも安く済む可能性がある。

## 日本の医大を蹴って海外へ

問題は入ってからだ。講義はすべて英語で行われ、1年目から専門課程が始まる。現地を通う学生は、「とにかく試験が多く、つねにpassかfailの瀬戸際」と音を上げる。ストレートで卒業できる人は半数程度。入学前の1年間の予備コースと、帰国してからの国家試験受験期間を含めれば、日本で医師になるには最短でも8年かかる。

ただ、卒業すれば欧州での医師免許を取得し、海外で医師として働けるチャンスもある。以前は医学部受験に失敗した多浪生の受け皿だったが、開成、桜蔭といった名門進学校の現役生がハンガリー留学を選ぶケースも出てきているという。（本誌：藤原宏成）